

|              |   |   |
|--------------|---|---|
| マヤラン         | <i>Cymbidium macrorhizon</i> Lindl.   | 絶滅危惧Ⅰ類  |
| (環境省:絶滅危惧Ⅱ類) |   | ラン科   |
| 選定理由         | 森林の伐採による環境の変化や園芸目的の採取圧がある。  | <p>写真(山口宏子)</p>                     |
| 形態の特徴        | 高さは5-50cm。葉は花茎に鞘状の鱗片が付く。茎の先に1-5個の花が付く。花は白色に紫色を帯びる物や紫褐色の物まで変異がある。唇弁は長楕円形で先端が尖る。基部近くに2本の隆起がある。地下茎は灰白色の多肉質で良く分枝する。花期は7-10月 |   |
| 生態的特徴        | 山地の主に常緑広葉樹林下に生える。   |  <p>※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。</p> |
| 分布状況         | 本州、九州、四国に分布する。岐阜県では美濃地方西部と中部に分布する。  |   |
| 減少要因         | 森林の伐採や園芸目的の採取による。   |   |
| 保全対策         | 採取の禁止。生息地の森林を保全する。分布情報を公表しないことが望ましい。  |   |
| 特記事項         | 菌類のドクベニタケと共生関係があり、一度咲くと数年咲かないと言われている。   |   |
| 参考文献         |   |   |

文責:山崎玲子